緑丘トピックス

平成 28 年度
第 4 号
9月9日（金）発行

Date Midorigaoka High School 北海道伊達緑丘高等学校　TEL/FAX 0142-24-3021

勝てなかった人たち　校長 吉瀬献策

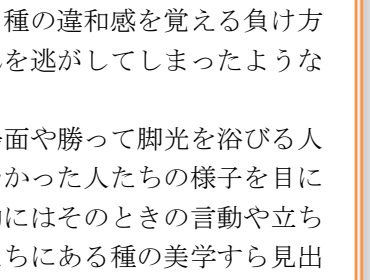
オリンピックが終わりました。勝った人負けた人、悲喜こもごものドラマが展開されました。そうした中で、自分が気になったのが勝てなかった人たちです。標記の仕方になりますが、負けたという言葉を使うには微妙なニュアンスにおいてある種の違和感を覚える負け方をしたり、勝てる実力がありながらそれを逃がしてしまったような人たちです。

報道は、自国の選手のメダル争いの場面や勝って脚光を浴びる人たちを追うのが専らで、なかなか勝てなかった人たちの様子を目にする機会は得られないのですが、個人的にはそのときの言動や立ち振る舞いが興味深く、時には一部の人たちにある種の美学すら見出します。一様に浮かべる、悔しさや悲しみ、悲憤、諦念等といった感情以外の心模様、忌憚のない本音が顔を覗かせ、その人物の人となりを垣間見るようです。さらに、その選手の今後の成長と４年後にも期待を馳せます。また、個人的な経験値からも、負けたり失敗したことから得ることの方が多かったですし、勝てなかった人から敗因を分析した話を聞く方がその後の稽古に役立ちました。

この勝てなかった人たちは、ぎりぎりで勝利を逃がした人たちです。そして、そこに至る過程には筆舌に尽くしがたい努力があったことは誰しもが想像できることでしょう。多くのスポーツの世界において、トップクラスの力を維持できる年限は短く、比例してその血の滲むような努力も長くつづくことにはなりません。換言すれば、いくら好んできつく辛い努力をしようにも長くつづけられないということです。されば、その限られた短い時間であれば、我々凡夫も必死に努力することができるのではないでしょうか。昨今、なにやら頑張れという言葉を口にするのが憚れるような風潮ですが、生徒諸君がきついことや困難なことに歯を食いしばって対峙する環境をつくることも大切だと考えます。

さて、体育大会では、生徒諸君は個々の体力に応じて溌剌と体を動かしていました。応援の態度や団結心もさすが緑校生。立派でした。その折の閉祭式で、マラソン大会の復活について触れました。予想にたがわず生徒諸君の反応は微妙でしたが、復活を望む声は同窓生や保護者の方からも寄せられています。社会人となった卒業生が郷里に帰ったときや同窓会で共有する想い出の１頁として、一考の価値はあるやなしや。

晴れ晴れと体育大会 3B＆3Dが総合優勝!!



８月 24 日(水)・25 日(木)の２日間にわたり、体育大会が行われました。今年度は８月中の実施。オリンピックや甲子園の熱気がまだ冷めない中、生徒たちは気合い十分に『優勝』目指して頑張りました。ソフトボール・サッカー・卓球・バレーボール・バスケットボール・ドッヂボールの各競技は、すべて一本勝負で敗者復活戦のない“トーナメント方式”です。１回戦から３学年のクラス同士が決勝戦さながらに火花を散らせて戦うこともあれば、経験者などを擁する１学年のチームが上級学年を相手に勝ち星をあげることも――。声をからすほどの熱い応援のもと、今年も一喜一憂のさまざまなドラマがありました。しかしながら勝ったチームも負けたチームも、試合後は互いの健闘を称え合い、握手をしたりハイタッチをしたりする姿がみられ、まさに学年を超えて緑丘が一つとなった瞬間でした。学校祭に続き“チーム緑高”が感じられた、素晴らしい２日間となりました。体育大会でさらに深まった絆や友情を大切に、これからも他を思いやる豊かな学校生活を送っていきましょう！

競　技	優　勝	準優勝	３　位
総合得点	３B・３D（同点）		３C・２C
クラス対抗リレー	３D	２C	３A・２A
男子バレーボール	３D	３B	３C・２D
女子バレーボール	３B	３A	３C・３D
男子バスケットボール	３D	２B	３C・２D
女子バスケットボール	３B	３C	２C・２D
男子サッカー	２B	２D	３D・２C
女子ドッヂボール	３B	２B	２C・１C
男女混合ソフトボール	３D	２C	３A・２A
男女混合卓球	３D	２C	３C・２A

勇壮な角山車とともに 伊達武者まつりに参加!!

８月６日～７日に開催された地域のイベント『伊達武者まつり』において、本校生徒が「市民山車」の行列に参加し、市民や観光客の目を楽しませました。今回はサッカー部・演劇部の生徒に加え、ＰＴＡの保護者の方々など約 50 名が参加。スクールカラー（ディープグリーン）の特注法被に身を包み、特製の団扇と幟（サッカー部の保護者の方々に手製で作っていただきました）を手に生徒たちは、ワッショイのかけ声とともに山車を引いていきました。

また演劇部の生徒たちは山車の前でダンス２曲を披露。激しくキレのあるパフォーマンスで大いに盛り上げ、沿道からもたくさんの拍手をいただきました。

このほか、４月から伊達市青年会議所主催の「町づくりボランティア」に参画している生徒たちも、「伊達音頭」を舞いながら練り歩き、行列に彩りを添えました。本校の「伊達武者まつり」参加は今回で２年連続となります。こうした行事への参加を通して、机上の学問のみならず、地域に対して主体的に貢献できる生徒の育成をめざしていきたいと思います。来年以降も伊達緑丘高校は「武者まつり」に参加しますので、生徒のみなさんをはじめ保護者の皆様もぜひ一つとなって参加してみませんか？

事前準備などご尽力いただいた保護者の皆様、主催者・運営者の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました！

よい撮い緑（どみどり） Midorigaoka 2016年7~8月

◆◇◆◇◆◇◆ 7月13日(金) 性教育講演会(1年)

助産師･思春期保健相談士の高村泰子先生を講師にお招きし、
思春期の性について考える貴重な機会となりました。

7月19日(金) キャリアデザイン講座(2年) ◆◇◆◇

千歳科学技術大学の先生をお招きし、大学の学びを体験。
アクティブ･ラーニングを通じて進学意識を高めました。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆ 7月21日(木) バス遠足

３学年の生徒たちがバス遠足でルスツリゾートに行きました。
本格的な受験シーズンを前に研修・交流を深めました。

8月4日(木) 普通救命講習会 ◆◇◆◇◆◇◆◇◆

西胆振消防組合署員の方々をお招きし、講習会を行いました。
ＡＥＤを用いた心肺蘇生法などを実習しました。

◆◇ 8月8(月)~10日(水) 高校生環境ミーティング

当別町で行われた標記の学習会に本校から生徒３名が
参加しました。環境保全について考えていきました。

ホームページでも学校生活を紹介しています！

行事をはじめ、日々の生活や配付物（通信等）を日々公開・更新しております⇒ http://www.datemidorigaoka.hokkaido-c.ed.jp

9月の行事予定表

命の大切さを学ぶ教室 ⇒ 9月14日(水)
宿泊研修(1年) ⇒ 9月26日(月)～28日(水)
高大連携事業(2年) ⇒ 9月27日(火)

日	曜	行　事　予　定
1	木	上級学校説明会(北海道科学大)
2	金	上級学校説明会(北海学園大･日鋼記念看護学校)
3	土	第2回高2看護模試
4	日	
5	月	上級学校説明会(市立室蘭看護学院)
6	火	前期期末考査①
7	水	前期期末考査②
8	木	前期期末考査③
9	金	前期期末考査④、カウンセリング事業 見学旅行保護者説明会(18:00 視聴覚室)
10	土	第2回全統記述模試(3年) 東京アカデミー第2回看護医療模試(3年)
11	日	
12	月	
13	火	
14	水	命の大切さを学ぶ教室(5～6校時)
15	木	
16	金	小論文模試(3年)、第1回高2公務員模試(2年)
17	土	第1回ベネッセ･駿台マーク模試(3年)
18	日	
19	月	敬老の日
20	火	
21	水	喜楽園訪問
22	木	秋分の日
23	金	宿泊研修結団式、成績会議
24	土	第4回道看模試(3年)
25	日	
26	月	宿泊研修(1年)①＜札幌市＞
27	火	宿泊研修(1年)②＜札幌市＞、高大連携事業
28	水	宿泊研修(1年)③＜札幌市＞
29	木	交通安全講話
30	金	前期終業式、助産師講演(2年)、カウンセリング事業

★諸事情により変更となることもありますので、ご了承ねがいます。

センパイの実績に続け!! 受験準備･部活動新人戦

７月の学校祭終了から、本校では「個人面談週間」を実施し、普段の学習や生活のことなどをはじめ、進路希望の確認や取り組み状況について協議していきました。夏季休業に入ってからは「進学講習」も行われ、基礎・基本から大学受験レベルの応用問題まで、集中して取り組んでいきました。とくに受験学年となる３学年の生徒たちは、今まで以上に時間と労力をかけて学習に向かい、その努力の成果が模擬試験（全国レベル）においてもあらわれてきています。就職志望の生徒たちも、来るべき本番に向けて、日々履歴書作成や面接指導に奮闘しているところです。

また３学年が引退してからの部活動も、「センパイたちの足跡に続け」と、秋の新人戦などに向けて汗を流しています。今年度は３名の生徒が全国大会に出場したり、女子バレーボール部が 10 年ぶりに全道進出を果たしたりするなど、良いニュースがたくさんありました。一方で、残念ながらあと一歩のところで全道を逃し、涙をのんだ部局もありました。ともに喜怒哀楽を分かち合った先輩たちが引退したなか、後輩部員たちがさまざまな想いを汲んで大いに飛躍してくれることでしょう。みなさまの応援のほど、よろしくお願いします。